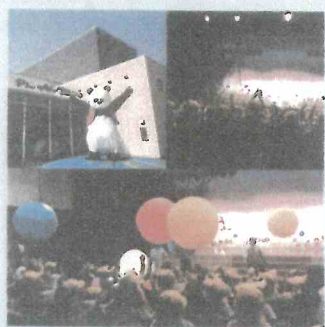


劇団カッパ座とは

劇団カッパ座は、1968年に設立し、2018年で50年を迎えます。50年間人形の中から、こどもたちの瞳を見続け、自らが感動し、涙し、日々新しい気持ちで様々な舞台に立ち続けております。ひたすらにこどもたちの幸せを願いながら。

舞台は、もちろんのこと、舞台以外では、NHK Eテレ（旧教育テレビ）、遊園地など、幼稚園団体、会館自主公演など、幅広い公演を継続しております。



制作にあたり

演出：古市 次晴
初めて、大作の演出に関わらせていただきました。普段は、映像製作やデザイン関係で関わっていましたが、今回の作品は、全編を歌で綴る作品で、セリフの収録にも気を使いました。時代背景と現代とのギャップをうまく埋められていたら、嬉しいです。いつの時代にも、心に触れる！心に残る！ものは、同じではないかと感じております。会場に来られた皆様に喜んでいただけることを期待いたします。どうぞお楽しみくださいませ。



バトンタッチ



前年のつるの恩がえしは、日本昔話。本年は、ガラッと変わり、洋物です。若いアイデアとセンスに期待して下さい。僕も楽しみです。

Kousuke

★50周年記念作品★

源謝：谷口守泰先生

ふたりの王子



劇団カッパ座

<http://www.kappa-za.co.jp>



今回の作品「ふたりの王子」はアメリカの小説家マーク・トウェインの著「The Prince and The Pauper」を改題して、ぬいぐるみ人形たちが歌で綴る小歌劇（オペレッタ）に仕上げております。1980年のアメリカ公演以来、3度目の上演となります。

エドワードとトムを入れ替わった生活を通して、人は、外見ではなく、中身が一番大切だということ。そして、ヘンドンを通して、人を尊び、いたわる心の大切さを描いております。



ふたりの王子

あらすじ

英国王子エドワードとロンドンの貧民街で乞食として生きるトムは、同じ日に生まれ、容姿も良く似ていたことから、興味本位で衣服を交換してみることに。トムは憧れの宮廷生活、エドワードは乞食として庶民の生活を。エドワードは、誰がみても貧しい少年トムにみえ、トムは、頭がおかしくなった王子と思われ生活が始まります。乞食に間違えられお城を追い出されたエドワードは、偶然出会った騎士マイルス・ヘンドンを護衛にし、自分が王子であることを証明しようとお城へむかいます。その時、国王の死を知らせる鐘が鳴り響きます。国王の死によって戴冠式を迎えることになったトム、物語は、感動的な結末に向かいます。

王子エドワード



こじきのトム



国王 姉エリザベス



トムの両親



ヘンドンの兄



ヘンドン



大司教



トムのともだち



神父



なないろの虹の仲間達も登場します